

尚綱大学生との意見交換会報告

5月23日(金)、大津町議会広報編集特別委員会の委員5人が、熊本市中央区九品寺にある尚綱大学を訪れ、現代文化学部1年生の21人と意見交換会を行いました。

冒頭では、大村広報編集特別委員長が大津町および町議会の概要を、スライドなどを用いて説明。その後、学生の皆さんから寄せられた質問に答えました。以下はその一部です。

Q: 多くの企業が進出し、建物が増える一方で、畑や山林が減っていると感じます。空き地で遊ぶのが好きだったので少し寂しい気持ちがあります。環境保護の観点から、議員の皆さんはどのように考えていますか。

A: 議員として、また町民としても強く問題意識を持っています。農業や林業などの一次産業は守るべき重要な分野です。何よりも、地域住民の皆さんとの対話を重ね、多角的な視点から議論を進めていくことが大切だと考えています。

Q: SNSなどで情報が氾濫する時代です。便利な反面、フェイクニュースやデマもあります。どのように見極めるべきだと考えますか。

A: 以前から、個人が発信する情報には真偽不明なものもありましたが、今はそれが広く拡散されやすい時代になりました。重要なのは、情報をすぐに鵜呑みにせず、拡散せず、出所や根拠を確かめる姿勢です。なお、「議会だより」は行政職員も確認しており、多くの目を通した信頼性の高い情報です。情報を見極める力を養うことが大切だと思います。

Q: 多くの意見や要望が寄せられる中で、優先順位はどのように決めているのですか。

A: たとえば「道路の陥没がひどい」といった相談を受けることがありますが、対応には予算が必要なものも多いです。現場を確認し、地域の区長さんなどと連携しながら、必要性の高いものから進めています。

Q: 「議会だより」の写真の画質が粗いものがあります。ある程度、統一した方が良いのではないのでしょうか。

A: ご指摘ありがとうございます。写真データが手に入らず、スキャン画像を使用することがあります。今後はできるだけデータでの入稿を徹底していきたいと考えています。

最後に、大村委員長が「皆さんの地域の『議会だより』も、ぜひ関心を持って読んでみてください」と挨拶を述べました。質疑応答は多岐にわたり、たいへん有意義な意見交換となりました。

大津小学校6年生 出前講座で議会を学ぶ

7月4日(金)、大津小学校6年生の4クラス・計133人が出前講座の一環として大津町議場を訪れ、議会や議員の役割について学びました。

はじめに、議会事務局職員がスライドを使い、時折クイズを交えながら、議会や議員の仕組みについて分かりやすく説明。その後、職員が町

長役を務め、模擬採決が行われました。

「学校のすべての水道の蛇口からジュースを出す」「長期休みの宿題をなくす代わりに、平日の宿題を2倍にする」「月曜から土曜まで登校する代わりに、毎日4時間授業にする」など、学校生活に関わる模擬提案が町長役から提示されました。

児童からは「ジュースは1種類だけでいいですか?」「歯みがきの時もジュースですか?」といった鋭い質問が飛び出し、町長役の職員が返答に困る場面も。質疑の後は賛成・反対の討論が行われ、最後に実際の議員と同じボタンを使って採決が行われました。結果が発表されると、議場には歓声が響いていました。



質疑や討論の時間では、活発に意見が交わられていました。



実際に採決ボタンを押して賛成・反対を表明しました!

若者の視点

尚綱大学生によるレポート 37

大津町議員との意見交換会を終えて

尚綱大学現代文化学部1年生と大津町議会広報編集委員と意見交換会を行いました。1年生の学生は日頃議員や政治と接する機会がありませんでしたが、今回3人の新人議員を含む議員5人からさまざまな話をうかがい、政治との距離が一気に縮まりました。

以下学生の声を抜粋し紹介します。



現代文化学部
1年
きやま
木山さくらさん

普段議員の方々がどういったことをしているのか知る機会が少ないので、今回の話し合いでとても貴重な経験ができました。

また女性で出産経験のある方や、幅広い年代の方々が議員として活躍されていて、色々な立場や観点から問題解決に取り組まれているんだと思いました。

お話を聞いたり大津町議会だよりを読んだりして印象に残ったことは、地域の活動でポイントがもらえる「水水ポイント」があることと、闇バイトを防ぐにはというお話です。私は大津町に住んだことがないので「水水ポイント」の存在をまったく知らなかったのですが、調べてみたところ、道路を清掃したりボランティアをすると活動した時間によって地域通貨と交換できるというもの、町内のスポーツジムなどで使用できるそうです。

このような取り組みは、小学生がボランティアに興味を持つきっかけにもなり、高齢者が地域とのつながりをもつことができ、健康的な生活が送れるなどさまざまな良い影響があると思います。ぜひ熊本県全域で実施してほしいと思いました。



現代文化学部
1年
みやもと み
宮本佑美さん

私は、大津町の議員の皆さんのお話を聞いて、印象に残ったことが2つあります。

1つめは、大津町議会だよりへのこだわりについて。前のものと比べて、文字量が少なくなり写真やイラストが多くなっていたり、QRコードを活用して本会議の動画を見られるようにするなど、見やすく、分かりやすくなっています。議会だよりで議会のことを地域の方に「見える化」するためにさまざまな工夫が凝らされています。

2つめは、仕事内容について。私は、今まで議員とは会議をするだけの存在だと思っていましたが、実際議員の方は現場に足を運んだり、地域の方々の相談や要望を聞いたりするなど、幅広く活動されていたことを知りました。

また、議員の方の自己紹介における「なぜ議員になったのか」というセッションで、大津町をよりよくしたいということを共通しておっしゃっており、実際に大津町のためにさまざまな尽力されていることが分かり、地域の方々にとって議員の皆さんはとても心強い存在なのだろうと感じました。今回の交流会で、議会について興味を持てたので、自分が住んでいる町の議会のことも調べてみたいと思いました。